

神奈川県立逗葉高等学校理科では昨年に引き続き、地域の子供たちの科学の祭典である逗子子供フェスティバルに参加しました。逗葉高校理科では2年生2名と教員1名でどんな企画が子供たち喜ばれるかを考え、1つは三浦海岸の貝殻と修学旅行先である沖縄でサンゴや貝殻採集をして貝殻細工を作ってもらうことにしました。もう1つはアメリカザリガニの心臓拍動をみるショーに決めました。

貝殻は三浦の岩礁地帯で拾い、修学旅行ではマリンスポーツや民泊の合間に海岸で集めてきました。問題は眼をどう表現するか悩みましたが、ネット上で600個の目玉のセットが安く買えました。あとは接着をどうするかでしたが、沖縄美ら海水族館魚類チーム教育普及・解説担当横山希代子学芸員のアドバイスでグルーガンを使ってホットボンドで接着することを教えてもらいました。ホットボンドは熱くなりますが、しっかり説明すればやけどすることもなく、小学校でも使っているようです。

逗葉高校の生徒2名は期末テスト終了から、貝の仕分けを行って試作品を作りました。また、カメならカメ用の貝を選んで一袋にまとめて最低でも50個体が作れるように準備しました。

さて、2016年12月17日(土)の当日、10時に開場となり、最初小さいお子様がカメを作ることが続きました。その後、こちらが用意した貝殻セットではなく自分で貝殻を組み合わせたという小学生が訪れて、貝を選んでもらいました。その女の子はヘビ貝に興味を持ち、「この貝はどのようにして生きているの。」と聞かれました。

教員が「この貝は粘液を出して餌を捕まえて生きているんだよ。」と答えると興味深そうに聞いてくれました。そして、「このヘビ貝を使って何か作りたい。」という希望なので「アマガイとの組み合わせはどうか。」といったら、うまくヘビができました。そのうえ、その女の子はトコブシの稚貝で下あごも作り、完成度も高くこちら驚きました。



ヘビ

もう一人、子供たちの発想の豊かさを感じたのは沖縄にちなんでシーサーを作ろうとしたセットを持っていった女の子はシーサーではなく逆にしてカタツムリを作りました。そして、サンゴの抜け殻で棒状のものを選び、カタツムリが枝を降りるようすをつくりました。それ以外でも、うまく三浦の貝殻で動物を作り、サンゴの上ののせてオブジェを作ったお子様もいれば、カメをサンゴにのせるお子様もいて、感心しきりの1日で3時閉場ぎりぎりまで作ってくれました。



ペンギン



カタツムリ



シーサー



シーサーランド

ザリガニは電極の影響で拍動をオシロスコープでみられませんでした。しかし、心拍による体液の上下動や雄雌の形態の違いはわかってもらったようです。

今回も学校内ではなく外部での科学教育活動で逗葉高校の生徒自身がいろいろなことを学ばせていただけたと思っております。今後もよろしくお願いいたします。